

# こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学  
青森中央短期大学  
青森中央経理専門学校  
青森中央文化専門学校  
認定こども園  
青森中央短期大学附属第一幼稚園  
認定こども園  
青森中央短期大学附属第二幼稚園  
認定こども園  
青森中央短期大学附属第三幼稚園  
幼保連携型認定こども園  
中央文化保育園  
幼保連携型認定こども園  
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学経営法学部3年 HO NGOC KHANH

特集：平成27年度就職状況



学園創立70周年

vol.96

目次

特集：平成27年度  
就職状況

2

青森中央学院大学

6

- ・学位記授与式
- ・入学式
- ・青森市議会議員と学生の意見交換会
- ・図書館新聞第一面インタビュー
- ・久留米大学との連携協定締結
- ・公開シンポジウム「北前船と北九州・北東北の文化交流」
- ・本学におけるCOC+の活動について
- ・地域社会活動委員会より
- ・海外留学相談会・平成27年度後学期海外留学報告会
- ・国際交流センターより
- ・新入生抱負
- ・シャドーイング実習での学び
- ・成人看護学実習Ⅰでの学び
- ・就職に向けて

青森中央短期大学

10

- ・新たな旅立ちの時を迎えて
- ・入学式
- ・キャンパスで作ってみよう
- ・SESSIONS ON THE ARTS 2016
- ・食物栄養学科入学前ゼミ
- ・JFA公認キッズリーダー実践活動
- ・ピオトープ開園

附属第一・第二・第三幼稚園  
浦町保育園 中央文化保育園

12

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校  
青森中央経理専門学校

14

- ・卒業証書授与式・祝賀会
- ・入学式・オリエンテーション
- ・「職業実践専門課程」認定
- ・未来の自分像
- ・進級者の意気込み
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

新教職員紹介

16

学園共通

18

特集 平成27年度就職状況

平成27年度のキャリア活動の振り返り



キャリア支援センター長 塩谷 未知

新卒でどこに就職するかによって、その後の職業人生が決まるわけではないし、その時点での人気企業が永続して社会の一線にあるとは限りません。しかし、新卒者を中心にした採用はいろいろな問題があるものの、就職する側と採用する側にとってお互いにメリットがあるため、学生の就職活動の基本となっています。大きさに言えば、新卒での就職活動という、一生でたった一度の機会を最大限に活かすべきと考えます。本学園キャリア支援センターはそのスタンスで、就業力アップを見据えながら学生の就職活動を支援しています。

国の経済政策の評価は分かれるものの、過去の採用減の影響があり雇用環境は若干明るさを取り戻しています。しかしながら、求人内容と学生の希望には常にギャップがあり厳しい雇用環境は継続しています。

このような雇用情勢の中で、本学園の平成27年度卒業生は培った知識や経験を活かし、果敢に就職活動を行いました。その結果、就職内定率は専門学校100%、短大100%、そして大学が95%という結果を残しました。

学生自身の日々の努力の積み上げと、それを具体化する行動力により高い就職内定率となっています。同時に、地域の企業の方や関係者、本学園卒業生の活躍、指導教員、キャリア支援センターのスタッフや関係者の皆様の温かいご支援とご指導の賜物であることは言うまでもありません。

学内企業就職セミナー

多くの学生にとり事実上の就職活動キックオフとなる第15回本学園学内企業就職セミナーは、県内や全国の企業の数多くの参加を得て、3月1日に開催しました。春休み中ということで、本学園学生の皆さんへの開催案内と当日の注意事項については、あらゆる場と手段を使って周知徹底を心がけました。

当日は、セミナー開始から時間が経つにつれ就職活動キックオフムードが高まり、各ブースには企業の説明を熱心に聞き質問をする本学園学生の姿がありました。参加学生数と参加企業数のバランスがよく、参加企業の皆さんからは「多くの学生さんにブースを訪れていただいた」と好評でした。

セミナー実施前後を含めて改めて振り返ると、本学園に対する企業の皆様の温かい気配り、教職員の皆様のご支援により、参加学生と企業の両者にとって満足度が高い学内企業セミナーとなり厚く御礼申し上げます。

(キャリア支援センター長 塩谷 未知)

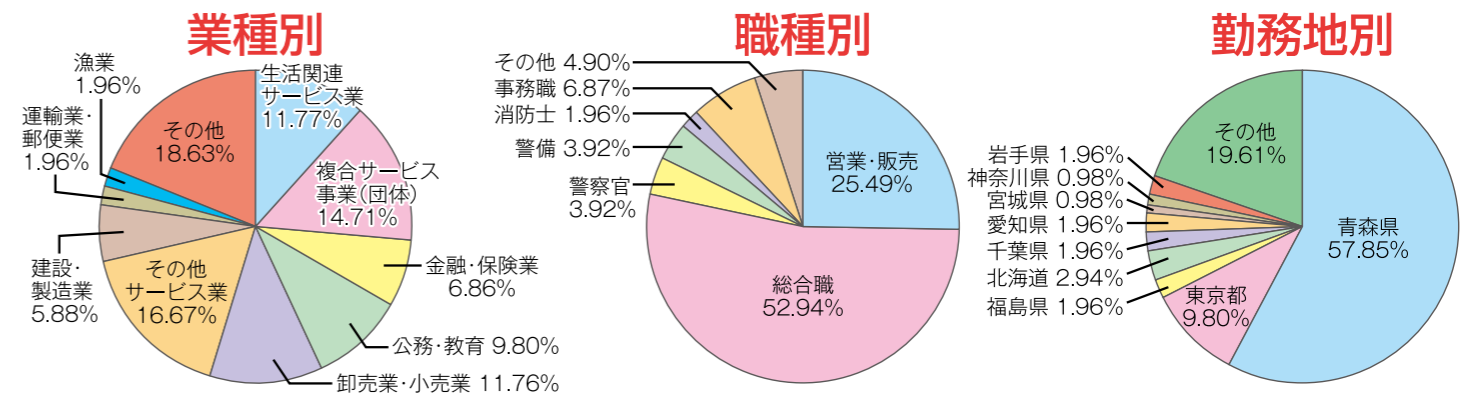


青森中央学院大学の状況

今春の卒業生は平成27年3月1日が就職活動解禁、試験面接開始が8月と企業の選考期間が短い日程でした(今年度は試験面接開始が6月となりエントリーから選考開始まで、かつてないほど長短縮化されています)。

就職活動日程の変更は学生のみならず、採用側にも戸惑いがあり、これまでの就職活動にはなかった動きがありました。例えばインターンシップによる事実上の就職活動の開始と長期化、中小企業を中心に内々定を出したものの辞退者が相次ぎ再募集を行う、また、「オワハラ」(就職活動終了の強制)などの新語すら生まれています。結果的に卒業式後の3月末までの長期間、就職活動は続きました。

今春の本学部卒業生の就職内定率は95%に達しました。就職先は地域の生活や企業活動を支える県内の多様な企業や団体、そして公務員へと活動の場が広がっています。また、これまで採用実績のない分野へ果敢に挑戦する学生も多数おりました。



世の中は多様な企業で構成され、多様な価値観をもつ社員を求めて採用活動を行っています。就職活動を通じて多くの人や企業に出会うことで肉体的精神的にタフになります。

貴重な学生生活、学業、学外活動そして就職活動、「あれもこれも」欲張ってやりましょう。  
(キャリア支援委員長 塩谷 未知)

就職活動体験記



経営法学部 遠田 晟也 さん  
函館市消防

私は函館市消防より内定を頂きました。公務員試験は青森県警察・むつ市役所・函館消防の3つを受験し、中でも第一志望はむつ市役所でした。しかし、勉強不足や実力を発揮できなかったために青森県警察とむつ市役所は教養試験の一次試験で不合格となりました。

青森県警察とむつ市役所の試験では失敗しましたが、この失敗をきっかけに自分を見つめ直し改めた結果、無事函館消防より内定を頂けたと思っています。

春から函館消防士の一員になりますが、ここで働くこと決まった以上、この仕事に誇りをもって日々の仕事をしていきたいと思っています。



経営法学部 グェン・ヴォ・フォン・リン さん  
レイズインターナショナル

就職活動は日本人学生にとっても留学生にとっても大変ではありますが、成長させてくれる時期だとつくづく思います。

まず大変なのは自己分析です。自分のことから、なかなか分からないことがよくあります。しかし、就職活動を通してもっと自分のことを理解できたと感じています。そして、就職活動というのは何回も何回も失敗することです。とてもつらかったですが、そのおかげで精神的に更に強くなりました。

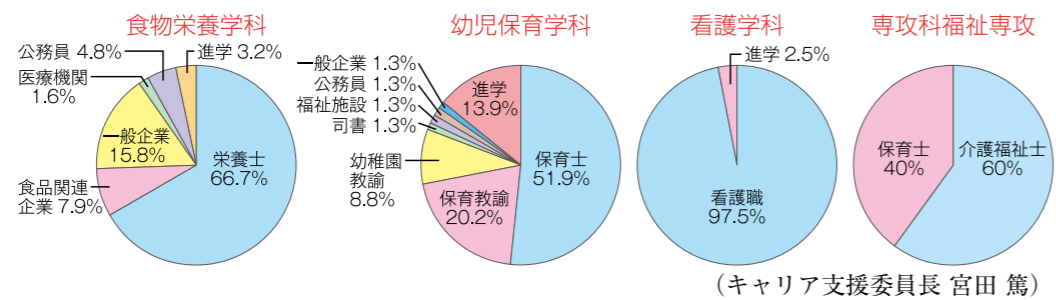
後輩の皆さんにも就職活動を通して成長して、強くなってほしいです。

## 青森中央短期大学の状況

平成27年度の就職活動は経団連の指針改定に伴い、企業の求人広報活動が従来より3ヶ月後ろ倒しになり、社会問題化しました。本学では、このことで学生の就職活動に不利益が生じないように、キャリア科目の時期は変更せず、遅れをとらないよう対応しました。また、キャリア支援センターでも求人動向の情報収集に努め、授業やガイダンス等での周知を行いました。その結果、内定のスタートダッシュは平成26年度より約1ヶ月早まり、スタートダッシュの良さが印象に残りました。

食物栄養学科は、栄養士内定が昨年度と同水準の66.7%、専門職全体（栄養士と食品関連企業）では74.6%に達しました。その他にも公務員の正規採用2名、四年制大学（管理栄養士課程）への編入学2名を含め、就職率100%を達成しました。幼児保育学科は、専門職全体（保育士と幼稚園教諭）が80.9%、その他にも公務員の正規採用が1名、専攻科福祉専攻科への進学が9名、さらに四年制大学（保健・生活福祉課程）への編入学2名を含め、就職率100%を達成しました。専攻科福祉専攻は例年通り100%内定を維持しています。看護学科は、3年前に四年制の看護学部へ改組転換したため、短期大学としては最後の年度となりました。国家試験の合格率は96.3%、就職率は100%に達しました。

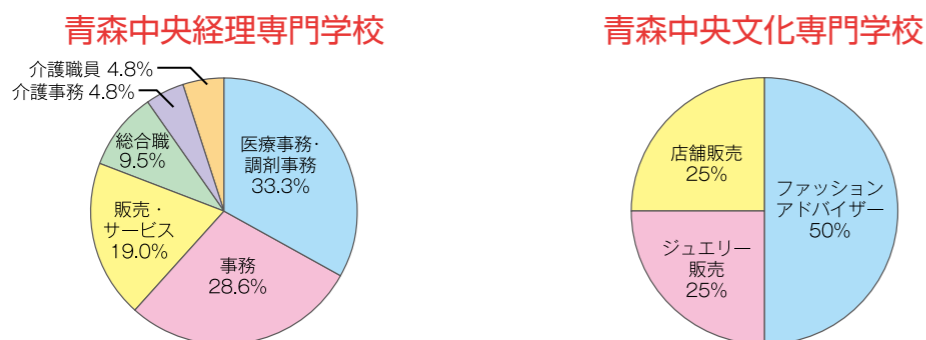
地域とともに歩む短期大学としての今後の課題は、単に優れた就職率を維持するだけでなく、青森県内への定着率を確保することです。キャリア科目や委員会による全体支援と、学科教員やキャリア支援センターによる個別支援の両輪による、学生支援をさらに続けて参ります。



## 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の状況

平成27年度は、専門学校全体として100%の内定を達成しました。(昨年度は88.5%)  
平成27年度の特徴は①早期の内定②専門分野への就職率向上③内定者の企業内実習がキーワードとしてあげられます。

- ①では、経理専門学校では、在籍21名中20名が年内に内定、最後の1名も1月に未内定という結果でした。
  - ②については、経理・文化ともに、それぞれのコース・専攻に即した就職先に内定を頂きました。要因として有効求人倍率の改善という社会情勢に加え、職業実践専門課程の申請前年度でもあり、今まで以上に企業との連携が活発になったことがあげられます。企業の方を迎えての教育課程編成委員会では、授業カリキュラムについての意見を頂きます。その意見を反映してキャリアデザインの授業だけでなく、各コース・各専攻での専門的な授業にも「職業」「業界」を意識した内容を取り込んだ結果、学生の職業意識の向上や企業側が専門学校生の採用にも今まで以上に目を向けるきっかけになり相乗効果が見られました。
  - ③は、求人増と関連しているところだと考えます。企業側が早期の内定を出し、早期の企業内研修を実施しています。特に医療事務関連の中小の病院・医院に多く見受けられました。
- ①②は本校の目標としているところですので、平成28年度も引き続き全員内定+専門分野への就職100%を目標に支援していきたいと考えています。(キャリア支援担当 鈴木 伸吾)



## 就職活動体験記



食物栄養学科 **高木 美奈** さん **丸大サクラ中薬局**

わたしは栄養士として地元で働くために8月頃から就職活動を始め、1社の給食委託会社に内定を頂きましたが、地元での勤務が困難となったため内定を辞退しました。経済面、両親やダウン症の弟の介護、そして青森が大好きなので辞退を決断しました。その後すぐにキャリア支援センターに行き、青森市内の求人を探すと、ハローワークにハッピードラックの総合職の求人がありました。もともとたくさんの人と関われる医療関係の仕事に就きたかったので、試験を受け、内定を頂きました。就職活動はとてもたいへんなので、キャリア支援センター職員や先生方にたくさん相談するとよいです。そして、それ以上に自分が一番何をしたいのを見つめなおすことが大切だと思います。



幼児保育学科 **笹谷 功明** さん **むつ市役所**

私は一度社会人を経て「より専門的な保育の勉強がしたい」「公務員試験にもう一度挑戦したい」など様々な動機をもってこの短期大学に入学しました。1年次は授業・課題の後に公務員試験の勉強をしていました。2年次になると実習の為の準備やミュージカルによって自分の時間が大幅になくなる中、合間を見つけて公務員試験の勉強や面接対策を行っていました。心身ともに本当にギリギリの毎日で、なかなか結果も出ず、苦しい日々でしたが、大変ありがたいことにむつ市役所から合格通知をいただくことができました。先生方が我が子のように喜んでくれた姿が今でも強く印象に残っています。振り返ってみると本当に多くの方々の支えがあって夢の入り口に立つことができたのだと感じています。これからは行政の立場から、福祉の第一線で働く皆さんや子ども達を取り巻く環境をよりよくしていけるよう尽力していきたいと思っています。

看護学科 **柳館 怜奈** さん **青森県立保健大学健康科学部看護学科編入**

私は高校生のときから4年制大学で看護学・助産学を学びたいと考えていたため、短大入学当初から進学を希望していました。進学対策として行ったのは、一つ一つの授業を大切にし、学んだことはその日のうちに覚えること、そして、幅広い世代に対応できるコミュニケーション能力や自主性が養われるボランティア活動、日本助産師会や助産学講座などへの積極的な参加です。早期からの国試対策や実習、編入学試験、卒業研究などの連立はハードなものでしたが、先生方、家族、患者さんなどたくさんの方に支えられ"助産師になる"という夢に一歩近づくことができました。



青森中央経理専門学校 **山本 真優** さん **医療法人鶴見会 八重田医院**

私は、医療事務コースで2年間学びました。入学当初の目標は「医療事務の資格をできるだけ多く取得し、医療事務員として就職する。」でした。卒業した今、この目標を達成し振り返ってみると、失敗をしたなら何が足りなかったのか深く考え、次に繋げることは何かを考え行動しました。そして、目標を忘れずに一つ一つのことを確実に達成し、充実した学生生活を送ることができたから自分の目標を達成できたと思います。就職活動は自分1人で動くことばかりですが、沢山の方々の支えで「内定」をいただくことができました。特に、面接試験前にはキャリア支援センター職員の方に面接練習を行っていただいたお陰で、実際の試験では、精一杯気持ちとやる気を表現できました。ありがとうございました。



青森中央文化専門学校 **鎌田 早紀** さん **株式会社ファイブフォックス COMME CA DU MODE 八戸ピアドゥ店(ファッションアドバイザー)**

私はアパレル企業への就職に必要な知識や技術を身につけるため、青森中央文化専門学校のファッション販売専攻に入学しました。店舗実習・ロールプレイングなどの実践的な授業や就職に有利な資格を多数取得できたこと、そして先生方に色々なアドバイスを頂いたことで、早期に内定を頂くことが出来ました。就職活動では、志望している会社のパンフレットやHPなどは勿論ですが、とにかく沢山の情報を集めて、より理解を深め臨みました。また内定を頂いてからのアルバイト研修は大変でしたが、おかげで初出勤日からスムーズに仕事を進める事が出来ています。何事にも前向きに率先して取り組む姿勢や向上心をこれからも持ち続け、店長を目指して頑張ります。

# 青森中央学院大学

## 学位記授与式

3月17日、青森中央学院大学第15期生（99名、うち日本人80名・外国人留学生19名）及び同大学大学院11期生（10名、うち外国人留学生10名）の学位記授与式が3号館（体育館）にて行われた。学部卒業生には学士（経営法学）の、大学院修了生には修士（地域マネジメント）のそれぞれの学位記が、学長から、日本人学生には「おめでとう」の言葉とともに、外国人留学生には留学生の母国語でおめでとうを意味する言葉とともに、一人ひとりに手渡された。

卒業の言葉は、学部の4年間を通じて最も優秀な成績を取った葛野菜奈さん、大学院において優秀な成績を取ったPHAM VIET HOANG君によって伝えられた。それぞれ自分自身の本学での体験を通じて感じたことを率直に述べたもので、自分自身の成長を実感し、自信を持って次の道へ進む決意が伝わるものであった。

（学務副委員長  
丸山 愛博）



## 青森市議会議員と学生の意見交換会

選挙権が18歳に引き下げられるため、学生にもっと政治に関心を持って欲しいとの思いから、学生団体「選挙へGO!!」は、青森市議会の矢野議長に、「市議会議員と学生が対話をする場を」という要望を提出しました。快く承諾して下さい、5月18日に市議会議員と学生のワークショップが実現しました。

ワークショップの前は、議員の方たちは固くて怖そうというイメージだったのですが、話してみると、青森市や私たち市民のことを考えており、意見もしっかり聞いてもらい、とても身近に感じることが出来ました。ある議員の方の「青森市の将来を決めるのは市民であり、政治家はその先頭に立つだけ」という言葉がとても印象的で、学生だからといって政治に無関心なのはよくないと思いました。

今回のワークショップは、青森市の将来を考えるきっかけになりました。学生の政治への関心を高めるためにも、もっとこのような場が増えれば良いと思いました。

（経営法学部2年  
森田 彩夏）



## 入学式

4月4日、入学式が行われた。経営法学部が18期生、大学院地域マネジメント研究科が13期生、そして看護学部が3期生となる。本年度は、経営法学部204名（日本人164名、留学生29名、編入生11名）、看護学部92名、大学院9名の計305名の新生を迎えた。

式典の開始に先立って、アンサンブルサークルによる記念演奏が行われ、入学式に華を添えた。式典では、花田勝美学長の式辞、石田憲久理事長の祝辞、ルーベイチュン客員教授（マレーシア）の来賓祝辞に続いて、日本の学生を代表して学友会会長の佐野翔平君、留学生を代表してパクサンウン君による歓迎のことは、そして入学生代表宣誓が行われた。今年度は、日本の学生を代表して看護学部の中畑敬登君、留学生を代表して経営法学部のルンラーグリアンカイ・アイリーンさんが、初々しくも力強く宣誓をした。

（学務副委員長  
丸山 愛博）



## 図書新聞第一面インタビュー —大泉光一教授、一連の著作について語られる—

大泉光一教授が4月に上梓された『政宗の陰謀—支倉常長使節、ヨーロッパ渡航の真相』（大空出版）については、95号でも紹介したが、本著作も含めた支倉常長慶長遣欧使節にまつわる大泉教授の一連の研究著作が、広く注目を集めて久しい。大泉教授は、本テーマの研究における第一人者である。

図書新聞も例外ではない。第3248号（2016年3月26日発刊）の第一面で、大泉教授が、図書新聞社長によるインタビューに応じておられる。「大泉光一氏に聞く、夢と消えた『キリシタン帝国』半世紀にわたる一次資料の批判的交渉をとおして浮かび上がる歴史の真相」と題されて第一面全体を占める扱いである。

大泉教授は、周知のように日本における危機管理研究におけるパイオニアであり、第一人者である。ご本人は、『支倉』こそ、ライフワークと宣われておられるが、複数の分野でそれぞれがそれぞれに劣らない第一級の仕事を成し遂げられる研究者はまことに稀有である。

前掲の著作は、専門家以外の読者にも大変、興味深く読める。図書新聞のインタビュー記事とともに、ぜひとも、ひととかれたい。

## 久留米大学との連携協定締結

### 大学間連携協定締結式

3月29日、久留米大学（福岡県久留米市）との間で大学間連携協定を締結し、締結式を行った。

今回の久留米大学と青森中央学院大学との連携協定は、九州と東北にあるお互いの大学の立地している地域の特性を活かし、相互の教育・研究活動及び地域社会活動を通じ、教育・研究の一層の発展、教育内容の充実、人材の育成及び地域社会への貢献等に関する大学間の交流を推進することを目的としている。

これまでも、両大学の間では、地域活性化のための共同での調査・研究の実施や、台湾からの国際インターンシップの受け入れなどを行ってきた。さらに今後は学生交流プログラムの実施や、両大学間の国内留学プログラム、短期海外留学プログラムの共同実施等を計画していく。

### 久留米大学

1928年に創立された九州医学専門学校を礎に拡大発展した私立総合大学。現在、文学部、法学部、経済学部、商学部、医学部の5学部11学科と5つの大学院研究科、18の研究所・センターを有している。

## 公開シンポジウム 「北前船と北九州・北東北の文化交流」

久留米大学と青森中央学院大学との大学間連携協定締結を記念し、公開シンポジウムを開催した。

シンポジウムは北前船による、北九州と北東北の文化交流に「民謡」が共通テーマであった。このテーマのもと、津軽三味線の歴史について、郷土史研究家の荒関勝康氏の解説、山上進氏による津軽三味線演奏、鐘ヶ江社中による筑後民謡の演奏と久留米大学大矢野栄次教授による北前船の航跡を巡って民謡の原点を巡る解説を行った。

多くの市民の方に参加いただき、盛況のうちにシンポジウムを行うことができた。



## 本学におけるCOC+の活動について

本学は、昨年度より「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業」に取り組んでいる。

学内推進体制として、学内COC+運営委員会、むつブロック、雇用創出連携プロジェクト（ツーリズム）、教育プログラムの開発（女子キャリアの支援、共育型インターンシップ）の4つの学内推進チームを組織し、全学の推進組織態勢も整った。昨年度のCOC+実施事業として、「共育型インターンシップシンポジウム」（3月3日）、「クアオルト推進シンポジウム」（3月13日）をそれぞれ開催し、先進事例の紹介や、課題の提言などをおこなった。

今年度はCOC+事業の本格実施の年であり、4月以降、本格的な実施に向けた取組みがスタートしている。特に、本学は、教育プログラムの共育型インターンシップのワーキンググループ主査校となっている。6月3日、青森市内外の関係者によって開催されたワーキンググループ会議では、「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」が紹介された。これは、昨年度、本校がNPO法人プラッ

トフォームあおもりと協働で制作した共育型インターンシップの周知・支援を行うための、企業向けの勧誘ツールである。

今後、このガイドブックを活用して、自治体、企業などの事業協働機関と連携しながら、共育型インターンシップを実施していく。また、共育型インターンシップの第1号となるインターンシップがスタートした。NHK青森放送局が今年の秋に放送予定の青森発地域ドラマ「進め！青函連絡船」の若者向けのプロモーションを企画・制作、広報までを学生が行うという企画で、期間は8月8日から9月2日まで、本学の学生4名が参加し、インターンシップ中に、「あっぷるワイド」と「あっぷるラジオ」への出演予定もある。

COC+事業を通じて、地域活性化に寄与する人財の育成と地方創生の推進・拡大を全県態勢で進められていくことになる。



## 地域社会活動委員会より

本学では、地域に開かれた知の拠点として、様々な生涯学習の機会を提供しています。

**公開講義「暮らしと地域」:** 伊奈かつべい氏をはじめとする地域で活躍する方々を講師としてお招きし、青森について様々な角度から学んでいます。

**看護学部公開講座:** 今年度は一戸学部長、伊藤教授が研究テーマについて講演を行いました。また、本学教員によるミニ公開講座も開催しています。

**特別講演会:** 著名な文化人・研究者等をお招きする特別講演会ですが、今年度は社会保障制度研究の第一人者である、宮本太郎氏を講師に迎えました。

**世代の架け橋講座:** 高校生と地域の方を対象に本学の教員や、外部講師による講演、ワークショップなどを行っています。

**出前講座:** 県内各地の教育機関、医療・福祉施設等で本学教員による講演などを行っています。

この他、先進的な取り組みをしている首長にお話を聞く「市町村長リレートーク」、連携協定を締結しているむつ市での市民講座、留学生が講師を務める「留学生による語学講座」等、様々な取り組みを行っています。

## 国際交流センターより

### 桜流鏝馬見学

4月24日、桜が満開の中、「日本で唯一の女性だけの桜流鏝馬」と「馬の街・十和田市」を学ぶため、留学生19名と日本人学生チューター2名が十和田市を訪れました。当日は、スピードと迫力のある桜流鏝馬イベントを見学するとともに着物試着や弓の試し撃ちをする体験をしました。

また、外国人の眼から感じたイベントの良かった点や改善点等の調査に協力し、今後の外国人観光客誘致に役立ててもらおう活動も行いました。



### タイ・泰日工業大学サマーキャンプ受入

5月1日～26日までの約4週間、協定校であるタイ・泰日工業大学(TNI)の学生7名を受け入れ、日本語学習と日本文化体験を中心にした短期留学生受入プログラムを実施しました。

TNIの学生は、書道体験、茶道体験、農家民泊、青森南高校との交流、県内観光などのプログラムをこなし、また青森りんごの学習をとおして成果発表

## 海外留学相談会・平成27年度後学期海外留学報告会

平成28年度の学校法人青森田中学園海外留学プログラムの参加者募集が始まりました。

まず、国際交流課とともに海外留学を経験した日本人学生と留学先の協定校から本学に留学している外国人留学生在が説明役となり、海外留学プログラム相談会が開催されました。海外留学に関心がある学生にとっては、先輩学生から生の情報を得ることができ、海外留学への意欲が高まりました。

そして、5月10日、2月～3月まで中国・上海大学とオーストラリア・マッコーリー大学に短期留学した学生4名による海外留学報告会を開催しました。相談会に参加した学生も出席したなかで、海外での体験談や学んだこと、そして語学能力の向上だけではなく精神的にも成長したこと、今後の目標など、内容の濃い報告があり、今後海外留学をめざす学生にとってもとても参考になる報告会となりました。



も行いました。

このプログラムでは、留学生チューターと日本人学生チューターの積極的なサポートもあり、学生同士の交流も促進され、両大学の学生にとって大きな成果を得ることができました。



### FSA主催新入生歓迎会

5月13日、留学生と日本人学生で作る交流サークル「FSA」が主催する新入生歓迎会が開催されました。

留学生や日本人学生、教職員など150名以上が参加し、軽音楽部・アカペラサークル・ねぶた囃子方部・三味線サークル・各国留学生による最高のパフォーマンスと、アジア料理で新入生を歓迎しました。

留学生と日本人学生が協力し合って企画・運営するこの歓迎会によって、新入生は多くの友達を作ることができました。



## 新入生抱負

### 看護学部1年 大坂 あずさ

私は、介護福祉士をめざして高校へ進学しました。しかし、介護では利用者へ提供できるケアに限界があることを痛感し、看護学部に入學しました。

大学へ入学し先生方のお話を聞き、高校と大学で一番違うところは「自由であること」と感じました。私は「自由」とは、自分のすべてのことに対して自由であり、そのすべてに「責任」という言葉がついてくるということだと考えました。これは高校生の私では考えてもいなかったことで、大学は自らが学ぶ場であることを学びました。

私の目標は、救命救急の現場でどのような状況でも落ち着いて、今何が必要なのかをしっかりと判断でき、患者さんに安心して治療を受けてもらえる看護師になることです。そのために私は、4年間の大学生活で専門的な知識と技術を学び、患者さんが安全で安心できるケアを身につけ、自らが成長できるよう頑張りたいと思います。

## 成人看護学実習 I での学び

### 看護学部3年 畠山 真綺

2年生の2月に3週間、成人看護学実習Iへ行ってきました。実習では、全身清拭・体位変換・口腔ケアなどの日常生活援助、患者さんの病態・状態に関連したバイタルサイン測定・観察、患者さんや家族とコミュニケーションを図ることなどを行いました。

これらから学んだことは大きく分けて3つあります。1つ目は、日々患者さんの状態は変化することを頭に入れて行動することです。状態の変化によって観察やケアなどの優先順位が変わることを学びました。2つ目は、患者さんの個性に応じたケアをすることの大切さです。教科書や参考書通りではなく、実践してはじめて分かることが多くありました。3つ目は、家族からの情報収集の大切さです。患者さんの性格や入院する前の状態を知ることでコミュニケーションがとりやすくなりました。今回の実習の学びを次の実習に活かしていきたいです。

## シャドーイング実習での学び

### 看護学部2年 富原 舞

平成27年12月に2日間のシャドーイング実習のため、青森県立中央病院に行きました。実習では看護の現場を見学し、実際に患者さんと接して学ぶ貴重な機会となりました。

手術後間もない患者さんの病室に行ったとき、看護師は「胸の創を見ますね」と言いながらも、視線は呼吸の深さ、創の状態や顔色など患者さんの全身を観察していました。これは、創の痛みにより呼吸が浅くなるのを未然に防ぐための観察でした。看護師には、患者さんの1点だけを見るのではなく、全身状態を把握できる観察力と広い視野を持つことが絶対に必要であると実感しました。

実習病棟は、心臓血管外科で患者さんの行動範囲が細かく制限されていました。そのため、患者さんは看護師の了承を得てからの行動が多く、看護師に申し訳ないという気持ちを抱えているように感じました。看護師は、患者さんの気持ちを楽しめるような声掛けやスキンシップを用いて接していました。私も患者さんとの信頼関係を築くためにコミュニケーションのスキルを磨く必要があると痛感しました。

## 就職に向けて

### 小笠原 未来さん 平成27年度卒業 青森県立中央病院勤務

私の就職に向けての抱負は「先を見据えた行動をし、常に相手の立場になって考えながら、看護をする」です。

学生の頃様々な実習に取り組み、患者さんと関わっていく中で、私は患者さんが入院している時のことだけに重点を置いて考えていました。今思えば、患者さんに十分寄り添えておらず、患者さんを不安にさせていたのではないかと感じます。患者さんや患者さんを取り巻く環境が常に変化することを考えると、その時のことだけを考えることは、何か問題が生じたときに、対応ができないことにも繋がります。

自分が学生時代には成し得なかったことを、看護師としてしっかりできるようにし、常に先を見据え、相手の立場に立ち、寄り添える看護を提供できるようにしたいと考えています。そのためには、正しい技術と知識を身につけ、自分ができることは何かを普段から考えて行動していきたいです。

# 青森中央短期大学

## 新たな旅立ちの時を迎えて

例年よりも暖かく、春の訪れを感じられた3月15日、青森中央短期大学学位記授与式・修了証書授与式が挙行され、久保学長より学位記・修了証書が一人ひとりに授与されました。食物栄養学科1年の小野寺布葵さんが歓送のことばを述べ、看護学科3年の及川あずささんが卒業のことばを述べ、食物栄養学科64名、幼児保育学科79名、看護学科80名、専攻科福祉専攻5名の計228名が学び舎を巣立っていきました。

式の後には、卒業生の実行委員会が主催する祝賀会が催されました。それぞれの学科の趣向を凝らした余興や企画が行われ、学生生活の思い出を振り返りながら和やかな時間となりました。また、卒業を惜しみながらも、新生活が始まる前向きな表情も見られました。

社会人としてのスタートラインに立ち、これからますます学びの大切さを実感することが多くなると思います。積極的に学び、初心を忘れず活躍することを期待しています。



## キャンパスで作ってみよう～大学生とワイワイ～

5月14日、平成28年度高校生対象公開講座「キャンパスで作ってみよう～大学生とワイワイ～」を開催しました。

昨年度から始まったこの講座は、高校生と本学学生が交流しながら一緒にモノ作りをするという趣旨で行われています。今回は、「作って食べよう飾り巻きずし」のテーマでバラの巻きずしを作りました。当日は16名の高校生が参加し、食物栄養学科の学生と「わいわい」おしゃべりしながら楽しく作業を行っていました。参加者からは「簡単に作れて楽しかった」「大学生と一緒に作れて楽しかった」「大学生と交流できた」などの感想をいただきました。

一緒に同じものを作ることで互いの距離が縮まり、大学や学生を身近に感じるだけでなく、青森中央短期大学を知ってもらうよい機会になったのではないのでしょうか。



## 入学式

4月4日、入学式が挙行され、明るく希望に満ちた新生が体育館に集まりました。青森中央短期大学では食物栄養学科55名、幼児保育学科79名、専攻科福祉専攻9名の新生を迎えました。入学許可では新生一人一人の初々しくも元気な返事が聞こえ、また在学を代表し冬部早希さんが新生に送った歓迎のことばの堂々としたスピーチに新生と共に頼もしさを感じました。

翌週から始まった新生ガイダンスでは、本学の建学の精神や教育理念が久保学長から伝えられ、専門職という夢をめざす意気込みを新たにされた事が、新生の様子から伝わってきました。続く学科別ガイダンスでは科目履修についてや学生生活のより詳しい説明を受け、さらに実感が湧いた事だと思えます。これから始まる短期大学での生活の中でどのように成長していくか、今後がとても楽しみです。



## SESSIONS ON THE ARTS 2016 響感アート交流地点 [JUST FIT TALK & DANCE SESSION]

5月20日、青森県黒石市で保育士として働かれたわら、世界を舞台にブレイクダンサーとして活躍するJUST FIT（鈴木健久）さんをお招きして公開講座を開催しました。当日は、ブレイクダンスの第一人者として世界の第一線に立ち続けているTAISUKE（野中泰輔）さんにもスペシャルゲストとして参加していただき、お二人のお話を楽しみました。

JUST FITさんからは、周りに支えられながらもいくつもの壁を乗り越えてきたこと、自分の仕事にごまかしのない向き合いかたをすることで自分らしいやり方を確立してきたことなどを、また、TAISUKEさんからは、ベーシックを極め、使いこなしてこそ世界に通じる力になっていくことなど、心に響く言葉をいただきました。

夢を追う若者達からのたくさんの質問、それを受け止め、本気で答えてくれる一流ダンサー達の言葉に、会場は熱く満たされました。



## 食物栄養学科入学前ゼミ

平成28年度食物栄養学科AO入試で導入した「ミニ講義」、テーマは「世界で一番肥満率の低い国はどこ…？ベトナムの秘密を探る」でした。この「ミニ講義」では、各教員が様々な「ベトナム」を紹介しました。そして、AO入試合格者は「AO入学前ゼミ」で、興味を持った分野のベトナム調査を進めました。学院大留学生との交流や各研究室2～3名体制での情報収集・報告方法の指導により、一人ひとりがレポートを完成させています。

入学後の4月7日、「ベトナムに関するレポート」発表会を開催しました。収集した情報をまとめ聴衆に伝える、堂々としたAO入学生の様子は、新生がこれから大学で身に付けるべきスタディ・スキルズのよい見本となりました。多様な角度から世界を知り、自らの地域への関心も高めるとともに、広い視野を持ち価値観の多様性を理解できる人間性を身に付けていきましょう。



## JFA 公認キッズリーダー実践活動 ～園児とスマイルチャレンジ！～

JFA 公認キッズリーダー資格を取得した幼児保育学科と専攻科福祉専攻の有志26名が、青森県サッカー協会キッズ委員会の指導とサポートを受けながら附属第一幼稚園の年長児に毎月サッカー指導を行っています。活動はメインコーチとなる2年生が考えた内容を、1年生と専攻科の学生がアシスタントコーチとしてサポートしながら行います。活動を通して子ども達にサッカーや身体を動かすことを「好き」になってもらい、子ども達の「もっとやりたい」という気持ちを引き出すことをねらいとしています。また、学生は実践を通して子ども達の「もっとやりたい」という気持ちを引き出す力の獲得をめざしています。この活動では学生も子ども達も失敗を恐れずに笑顔でチャレンジすることを大切にしています。学生は回を重ねるごとに緊張がほぐれ笑顔で活動できるようになっています。今後の活動がさらに楽しみです！



## 「青森中央短期大学・青森中央短期大学附属幼稚園ビオトープ」開園

6月2日、「青森中央短期大学・青森中央短期大学附属幼稚園ビオトープ」の開園式が行われました。ビオトープを設置するにあたっては、昨年4月に「ビオトープ新設検討プロジェクト」が発足し、それ以後、月1回の会議を経て、無事に開園の運びとなりました。ビオトープ事業は青森中央短期大学中期計画「こぶしの花プラン」の中にも位置づけられ、短期大学および附属幼稚園の新しい教育的特色として期待されています。

開園式においては、青森中央短期大学久保学長、認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園坪谷園長の挨拶に続いて、園児による誓いの言葉、短期大学ビオトープサークルによる看板の披露、コナラやコブシの記念直樹、キタノメダカの

放流などが行われました。また、弘前大学名誉教授佐原先生からメダカに関する講義していただき、園児たちも熱心に耳を傾けていました。式典後には、園児たちはビオトープサークルのメンバーと思いっきり遊びました。

青森中央短期大学ビオトープサークルは平成28年4月に結成され、6月現在26名が所属しています。ビオトープ開園の準備として、生き物の捕獲やビオトープ内の看板の製作を行いました。今後は、園児たちと定期的に交流し、自然を活用した遊びや環境問題に関する主体的な学習、ビオトープ内の生き物の保全など様々な活躍する予定です。なお、サークル活動の詳細はツイッター（<https://twitter.com/chutanbiotope>）で発信しております。



# 附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

## 教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

### 認定こども園附属第一幼稚園



種いもに優しく土のお布団をかけてあげたよ♥  
夏になったら、大きなおイモになっていますように★



ピオトープ開園式！メダカを放流した後は、ピオトープで思いっきり遊んだよ♪



みんなで力を合わせて頑張った運動会★  
たくさん応援をありがとうございました♥

### 認定こども園附属第二幼稚園



\*春の遠足\* 気持ちいい青空の下、お友達と力いっぱい遊びました。楽しかったね♪



\*保育参観\* 年長さんは数遊び♪サイコロを使って床すごろくに挑戦！1・2・3♪



\*運動会\* 広いグラウンドを使って運動会！みんな最後まで頑張りました。紅組おめでとう。

### 認定こども園附属第三幼稚園



ぽかぽか陽気  
かなりや組さん散歩で何発見？



虫歯はないかな？  
きれいな歯ですね。



合浦公園へ遠足。  
年長さんはアスレチックも平気です。

## 幼保連携型認定こども園 浦町保育園・中央文化保育園



図書館見学  
たくさん本を読むことができました。



保育参観  
歯ブラシを作って、歯みがきのお勉強をしたよ。



♪ももたろさん、ももたろさ〜ん♪入園式での  
“ももたろう”の劇。ドキドキしたけどたくさん  
の拍手をもらってとっても嬉しかったよ。

## 先生達活躍しています 第14回

### 指導教諭として

認定こども園附属第一幼稚園



### 齋藤 明日美先生

専攻科を卒業後、他県にて介護福祉士と保育士を経験し、縁があり6年前から附属幼稚園で勤務しています。その間に二人目を妊娠・出産し、戻ってこることが出来、今年で2年目になります。

今年は、指導教諭という立場となり、主幹教諭や各クラスの先生方の補助として保育に携っています。また、未就園児対象の「親子で遊ぼう」も担当し、在園児と保護者の方々には勿論、入園前に幼稚園に遊びに来てくれるお友だちやお母さん方にも安心してもらえるよう、毎日笑顔を中心掛け、楽しく過ごしています。

これからも、保護者の目線でチェックし、自身の子育て経験も活かしながら、職員として子ども達の成長を見守り、常に笑顔で日々の保育を行っていききたいと思います。

### 認定こども園の中で

認定こども園附属第三幼稚園



### 中畑 道絵先生

昨年度は、自身で初めての未満児クラスでの担任を務めさせていただきました。言葉でのコミュニケーションで意思疎通がなかなか通らない1・2歳児。全てを泣き笑いで表現する赤ちゃん。以上児保育とはまた違った未満児保育では、私自身の育児での挫折や学びを活かせる場面が多々あり、一つひとつの小さな出来事が、とても嬉しく感じられました。数日前までできなかったことができるようになったのを目にしたり、初めて「センサー！」と、カタコトながらも一生懸命に呼んでくれたりしたことが、特に印象深く心に残っています。

今年度は年少児の担任となりました。今までの保育・育児経験を同時に活かしながらも、認定こども園職員の一員として、積極的に未満児さん達にも関わっていききたいと思います。

### 私の頑張る源

認定こども園附属第二幼稚園



### 古川 莉子先生

幼稚園教諭として働いて、今年で3年目を迎えました。毎日子ども達がかわい笑顔で「りこせんせい〜！」と呼んでくれることが私の“頑張る源”になっています。子ども達との生活は、毎日楽しい発見やストーリーがあって、私自身とても楽しく過ごすことができています。

この3年間で、年少・年中・年長と、全ての学年の担任を経験させていただきましたが、時には、子どもとの関わり方で悩むこともあります。そんな時はやはり、その子の成長段階を良く理解し、気持ちに寄り添いながら、その子のペースに合わせた関わりをすることが一番大切だと痛感しています。その中で、子ども達の成長を見るたび、心からやりがいを感じ、“この職業を選んで良かった”と強く思います。

これからも、保護者の方々や子ども達から信頼される保育者でいられるよう、日々努力していききたいと思います。

## 読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園浦町保育園 三上 由紀子先生

### 『わたしとあそんで』

マリー・ホール・エッツぶん・え、  
よだじゅんいちやく (福音館書店, 1968)

表紙の女の子がまずは印象に残ります。ひらくと、人・動物・植物が自然に生き生きと描かれていて、シンプルな文章で心の動きを無理なく表現しています。クリーム色を基調にし、お日さまがずっと見守っているのも、あたたかさを感じさせてくれます。

私のクラスの0歳児の子達は今、『いないいないばあ』（松谷みよ子文・瀬川康男絵）を読んでもらい笑顔になっていますが、成長して、いつか、この絵本を読んでもらって、どんな表情で見るとか楽しみです。

### わたしとあそんで



マリー・ホール・エッツ ぶん/え  
よだ・じゅんいち やく

# 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

## 卒業証書授与式・祝賀会

3月19日、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の卒業式が、保護者や在校生が見守る中、厳粛に執り行われた。

卒業生代表として、青森中央経理専門学校の猪股美沙子さんが、2年間多くの支えの中で学んできたことへの感謝の気持ちを述べた。在校生代表挨拶では、青森中央文化専門学校の岩間結子さんが、先輩方が築かれた伝統を引き継ぎ日々精進してまいりますと誓いを述べた。

同日午後に行われた祝賀会では、卒業生が2年間を振り返ったスライドを上映し、先生方や後輩へのメッセージを述べ、会場はたくさんの思い出に満ちていた。



## 「職業実践専門課程」認定

「職業実践専門課程」とは専修学校の専門課程であり、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における実務に関する知識、技術及び能力について組織的な教育を行う専門学校として文部科学省が認定します。

本校では各コース・専攻に関連する企業から委員をお招きし、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を立ち上げカリキュラム作成や実習・演習等に組織的に取り組んできました。

実習・演習では、青森県内のアパレル企業やファッション販売の店舗、税理士事務所やクリニック・調剤薬局、観光施設等で実践的な「業界」と連携した授業を展開し平成28年2月19日に青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校が認定を受けました。青森県内では初の認定です。

全国の専門学校の約3割がこの職業実践専門課程の認定を受けており、企業連携等により、即戦力を身につけられる職業教育機関として専門学校は今後益々社会的ニーズが高まっています。

## 入学式・オリエンテーション

4月8日、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の入学式が執り行われた。新入生を代表し、青森中央経理専門学校の谷 愛佳さんが、希望と期待に満ちた表情で「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」の建学の精神のもと、勉学へ励むことを誓った。

9日、11日はオリエンテーションを実施し、互いに交流を深めながらケーススタディでグループワークを楽しんだ他、講師の方を招き、「夢を実現させるために～専門学校生としての時間の使い方～」をテーマにご講話いただいた。学生は新たな学生生活のイメージを膨らませ、熱心に聴講した。



## 進級者の意気込み

青森中央文化専門学校2年 田邊 航

私はファッションアドバイザーを目指し、青森中央文化専門学校へ入学しました。卒業年度となる今年は、各行事や資格取得、就職活動においても悔いのないよう過ごしていきたいと思えます。今年は後輩もでき、何事も自分達が引っ張っていく立場なので、より高い意識を持って取り組んでいきたいです。特に文化最大のイベントであるBunka Fashion Liveでは、前回のクオリティを超えられるように仲間と力を合わせて頑張ります。



## 未来の自分像

青森中央経理専門学校1年 谷 愛佳

私はソフトボールのプレイ中にケガをし、病院へ行くことがありました。そこで、医療事務の方々と接していくうちに医療関係の職に就きたいと思いい、青森中央経理専門学校へ入学しました。



この専門学校での生活を充実なものにするために何をすべきかを考えたとき、私は資格取得や就きたい場所へ就職することなので、毎日勉強する癖をつけ、後悔のない2年間を送りたいと思います。

## 経理発信情報 Vol.17 ～ふるさと納税広報士～

1月21日、経理事務コースの学生がふるさと納税広報士検定に参加した。これは、県がふるさと納税について理解を深めてもらおうと実施しているもので、学生は約60分の講義を受けた後、テストを受験し理解度の確認をした。いま話題になっているふるさと納税だが、その仕組みや納付することで受けられる税制上の優遇などを学生らはメモを取りながら理解に努めていた。



## おすすめ図書 vol.15

青森中央経理専門学校 塚本 大広 先生  
『不確実な未来を見通す「投資バカの思考法」』  
藤野英人著 (ソフトバンククリエイティブ, 2015)

「草食投資隊」をご存じだろうか？  
著者の他にコモンズ投信の渋澤健さんとセゾン投信の中野晴啓さんとの3人で結成され、長期投資を根付かせようと書籍の出版や日本全国でセミナーを行っているのだが、草食投資隊の中では末っ子で表裏なくいつもおおらかでマイペースなO型と紹介されている。

今回紹介させていただくこの本は、著者がファンドマネージャーとしてこれまで経験してきたことを基に心掛けていること等をまとめているのだが、この本を読み終えたとき、自分自身の考え方や行動などを改めて考えさせられた。いくつか印象に残った言葉のひとつに、「今までと違う選択をしてみる」が挙げられる。今までと違う選択をすることで、小さな変化が起こり、その積み重ねで人生を変える大きなアクションが生まれるだろう、と述べている。

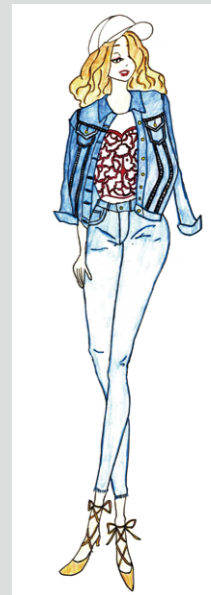
このように、新たな気づきをもたらしてくれる言葉が次々と書かれているので、書店等で見つけた際には是非手にとって見てほしい。

## ファッション通信 vol.15

### ～フェミニン×ボーイッシュ～

2016SS注目のトレンドキーワードは、「フェミニン×ボーイッシュ」。レース素材やスカンツなどのフェミニンなアイテムと、デニムやスタジャン、カーブキャップなどのボーイッシュなアイテムを組み合わせて、メリハリのあるコーディネートに。昨年引き続きデニムブームで、デニム×デニムもはや定番。デニムパンツはクロップド丈で足首を見せて女性らしく、そして裾を切りっぱなしにするのがポイントです。

カラーは、ビビットカラーやモノトーンがトレンド。個性を活かせるビビットカラーを取り入れて自分らしいお洒落をしましょう。



(記事・デザイン画：文化編集部サークル)

## 卒業生ピックアップ No.27

青森中央経理専門学校 平成26年度卒業  
青森整形外科クリニック(医療事務) 勤務  
松橋 恵里花さん

私は、青森中央経理専門学校医療事務コースを卒業し、昨年の4月から青森整形外科クリニックで医療事務員の仕事をしています。窓口で働いて感じていることは、患者様と接する時間が多く、在学当時、医療事務コースで学んだマナーや接遇に関する勉強がとても役に立っています。そして、忙しい毎日の中、分らないことはメモを取り、一日でも早く仕事を覚えるよう努力しました。今では仕事が終わると達成感を感じています。

在学当時は、医療事務の検定試験はもちろんですが、ビジネスやパソコンの資格取得も力を入れました。社会人になり、学校で学んできた医療事務の勉強や資格だけでなく、ビジネス知識やパソコンのスキルも必要とされ、発揮する場面が多いので、在校生の皆さんは社会に出てから何が必要とされるかわからないので、色々なことにチャレンジし、自分を成長させてください。





# 新教職員紹介

- ① 職位・氏名
- ② 出身
- ③ 担当
- ④ 抱負

## 青森中央学院大学

### 看護学部



- ①専任講師 三上 ふみ子 (みかみ ふみこ)
- ②青森県
- ③成人看護学
- ④これまでの経験を活かして、学生と共に学び成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



- ①助手 外 千夏 (ほか ちなつ)
- ②青森県
- ③母性看護学
- ④困ったことがあったら一緒に考えて乗り越えられる関係を学生と築けたらいいなと思います。



- ①助手 福士 裕紀 (ふくし ゆうき)
- ②青森県
- ③成人看護学
- ④青森中央短期大学看護学科の卒業生です。現場での学びを学生の教育に活かしていきたいと思っています。



- ①助教 島途 漠 (しまと ひろし)
- ②宮城県
- ③精神看護学
- ④教員としては一年生です。学生の皆さんと共に学び、看護の役割について考えていきたいと思っています。



- ①助手 熊谷 和可子 (くまがい わかこ)
- ②青森県
- ③老年看護学
- ④学生時代に過ごした場所で働くことになりました。学生の皆さんの学びを応援しながら、私も成長したいと思っています。よろしくお願いいたします。

## 事務局



- ①秋田県進学アドバイザー 鎌田 勝 (かまだ まさる)
- ②秋田県
- ③入試広報センター
- ④本学園の地域貢献には素晴らしいものがあると感じました。大学や短大の魅力を多くの高校生に紹介したいと思います。よろしくお願いいたします。



- ①飯田 清子 (いいだ きよこ)
- ②青森県
- ③地域連携センター COC+ 事業担当
- ④青森県の未来を担う人材を育成するCOC+の事業が円滑に進むよう、事務を務めることで、地域に貢献したいです。



- ①長尾 千賀子 (ながお ちかこ)
- ②青森県
- ③キャリア支援センター
- ④就職という大きな節目に、学生が自ら進むべき道を見つけ、自信を持って進んでいけるように精一杯支援していきます。



- ①泉 美幸 (いずみ みゆき)
- ②青森県
- ③庶務
- ④一日でも早く仕事を覚えられるよう努力していきたいと思っています。ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますがどうぞ、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



- ①千葉 輝男 (ちば てるお)
- ②青森市
- ③学術交流会館主任
- ④昨年8月から当会館に勤務していますが、寮生達の明るさや元気な挨拶を嬉しく感じています。寮生の皆さんに安全で快適な環境を提供していきます。



- ①佐藤 仁 (さとう ひとし)
- ②青森県
- ③COC+青森ブロック・コーディネーター (地域連携センター)
- ④COC+事業担当ですが、青森、弘前、八戸、むつの4ブロックとも縁があり、青森県の振興に少しでも寄与したい。



- ①鎌田 絵美 (かまた えみ)
- ②青森県
- ③学習支援センター
- ④早く環境・業務に慣れ、みなさんのお役に立てるよう頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。



- ①兒玉 晴代 (こだま はるよ)
- ②東京都
- ③国際交流課
- ④専門的な知識を身につけ、国際社会で活躍する人材育成のお手伝いをしたいと思っています。



- ①森山 稔 (もりやま みる)
- ②青森県
- ③こぶし会館主任
- ④1月からこぶし会館の宿直を担当しています。不慣れですが、ご意見要望申し付けて下さい。寮生の快適な生活を応援します。

## 青森中央短期大学

### 食物栄養学科



- ①助教 本間 維 (ほんまつなぐ)
- ②北海道
- ③主に司書課程科目の講義と演習 (図書館概論、情報技術の仕組みと活用など)
- ④図書館や情報科学といった世界を通じて、各学生の専門分野とは異なる立場にも目を向けてもらえるよう工夫して参ります。



- ①助手 外崎 秀香 (とのさき ひでか)
- ②青森県
- ③実験実習全般
- ④これまでは何事も覚えるのに精一杯でしたが、この先は、学生から頼られる教員になりたいという思いでいっぱいです。

## 青森中央文化専門学校



- ①齋藤 明日香 (さいとう あすか)
- ②青森県
- ③ファッションビジネス、アパレル専攻選択科目
- ④ファッション業界には沢山の選択肢がある事を学生にも知ってほしいです。一人ひとりの可能性を広げられるように、指導していきたいです。

## 認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園

### 附属第一幼稚園



- ①岩角 歩 (いわかど あゆみ)
- ②岩手県
- ③3歳児こすもす組
- ④子どもたちの気持ちに寄り添い、一緒に笑顔で過ごしたいと思っています。よろしくお願いいたします。



- ①須藤 千晴 (すとう ちはる)
- ②岩手県
- ③2歳児つくし組
- ④子どもたちと楽しくすごせるように日々の保育を精一杯頑張ります。



- ①笹原 舞 (ささはら まい)
- ②青森県
- ③1歳児つばみ組
- ④子どもの気持ちを大切に、大人になっても心に残るような保育をしていきたいと思っています。毎日楽しみながら、頑張ります。



- ①千葉 有香 (ちば ゆか)
- ②青森県
- ③0歳児つばみ組
- ④元気な子どもたちと一緒に楽しく過ごしたいと思っています。明るく元気に頑張ります。



- ①井口 真貴子 (いぐち まきこ)
- ②秋田県
- ③0歳児つばみ組
- ④子どもたちの言葉や思いに共感し、認めていながら楽しい保育を進めて参ります。

### 附属第二幼稚園



- ①太田 美伎 (おたみ みき)
- ②青森県
- ③3歳児さくらんぼ組
- ④行事など、全てが初めてでとまどう事だらけですが、子ども達と一緒に楽しみながら少しずつ慣れていきたいと思っています。



- ①小野 直子 (おの なおこ)
- ②青森県
- ③0・1歳児ぶどう組
- ④常に笑顔でいる事を心掛け、子ども達が楽しく安心して園生活を過ごせるよう配慮していきたいです。

### 附属第三幼稚園



- ①植村 奈央 (うへむら なお)
- ②青森県
- ③4歳児つばめ組
- ④子ども達と共に、元気いっぱい笑顔あふれる毎日を送りたいです。日々の学びを大切に頑張ります。



- ①蒔苗 裕美 (まかなえ ゆみ)
- ②青森県
- ③0・1歳児ひよこ組
- ④安心・安全な環境作りに配慮しながら、子ども達のチャレンジ精神を引き出し、達成感を味わえるような保育をしていきたいと思っています。



- ①山田 紫乃 (やまだしの)
- ②青森県
- ③0・1歳児ひよこ組
- ④子どもと一緒に成長しながら、私も成長していける保育者になるよう頑張ります。また先輩方の保育を見て自分に足りない部分を参考にし、保育に活かしていきたいです。

## 幼保連携型認定こども園浦町保育園



- ①奈良 香里 (なら かおり)
- ②青森県
- ③2歳児たんぽぽ2組
- ④子ども達をたくさん笑顔にできる保育者をめざします。子ども達と成長しながら毎日を楽しんで頑張ります。



- ①山口 美保 (やまぐち みほ)
- ②青森県
- ③1歳児つくし組
- ④早く仕事に慣れ、子ども達の成長を見守りつつ、自分自身も保育者として成長していきたいと思っています。

# 学園共通

## 青森田中学園感謝祭

2月8日、青森田中学園感謝祭が執り行われた。日々、針と身近に接し、ファッションを学んでいる青森中央文化専門学校の他、青森中央経理専門学校、青森中央学院大学大学院、青森中央学院大学、青森中央短期大学・附属幼稚園、中央文化保育園、浦町保育園、特別養護老人ホーム三思園等、各施設から多くの方々に参加した。

第一部は、廣田神社宮司田川伊吹様による供養の儀、玉串奉奠の儀等の神事が執り行われ、詔を捧げた。続いて、青森中央文化専門学校生が、一年間使用した折れた針・錆びた針に感謝を込めて柔らかい豆腐に刺し、労い休め、技術の上達を願った。

第二部では、感謝祭の神事を執り行った廣田神社宮司様より、物を慰め、感謝する心を育む大切さのお話をいただいた。また各幼稚園・保育園の園児達が日頃遊んでいるおもちゃへの感謝を、歌に込めて贈った。



## VIガイドライン制定

学校法人青森田中学園は、1946年創立時の「青森珠算簿記学院」「青森裁縫学院」を前身として、現在では複数の設置校を有しています。本学園の歩みと共に、校章・園章や学園シンボルマークがデザインされ、多様な媒体で、デザイン、カラー、フォントが多角的に展開されるようになりました。

複数の設置校が存在する現在では、設置校それぞれの魅力形成と共に、本学園全体でのブランド力の向上を図る必要があり、そのためには、統一感のある校章・学園シンボルマーク、ロゴタイプ等を使

### 学校法人青森田中学園 VIガイドライン

#### \*学園シンボルマーク

カラーの制定とともに、調整を行いました。

【使用カラー（CMYK）：C70/M25/Y100・C30/M30/Y70・K15】

#### \*ロゴタイプ・スクールカラー

ロゴマークの和文は「丸フォーク」、英文は「Century Gothic」としました。

スクールカラーは法人ならびに設置校毎にそれぞれ設定しています。

学校法人 青森田中学園 Aomori Tanaka Educational Academy  
青森中央学院大学 Aomori Chuo Gakuin University  
青森中央学院大学大学院 Aomori Chuo Gakuin University, Graduate School

青森中央経理専門学校 Aomori Chuo Accounting College  
青森中央短期大学 Aomori Chuo Junior College  
青森中央文化専門学校 Aomori Chuo Bunka Fashion College



青森中央短期大学附属第一幼稚園 The 1st Kindergarden affiliated with Aomori Chuo Junior Collage  
青森中央短期大学附属第二幼稚園 The 2nd Kindergarden affiliated with Aomori Chuo Junior Collage  
青森中央短期大学附属第三幼稚園 The 3rd Kindergarden affiliated with Aomori Chuo Junior Collage

## 学内ワークスタディ制度

学園では、青森中央学院大学と青森中央短期大学の学生を対象に「学内ワークスタディ制度」を今年度より本格的にスタートさせました。この制度は、教育的配慮の下にワークスタディ登録学生を学内の業務に補助的に従事させ、在学中の職業意識及び職業観の涵養と協調性ある人材の育成に資するとともに、業務への従事に応じた報酬を支給することで、経済的事情により就学困難な者に一層の経済的支援を図ることを目的として施行された制度です。

施行されてまだ間もない本制度ではありますが、図書館司書の補助業務や、ラーニング commons のチューター、学生の健康診断サポート業務や、上級生が下級生の学習や学生生活に関する相談を受け付ける学修サポーター、公開講座における案内業務や、語学力を生かした翻訳業務、各種アンケートの集計やデータ入力など、学園の様々なシーンで多様な業務への従事が実施されており、ワークスタディ学生の活躍は、学園を運営する大きな力として期待されています。

(学習支援センター 古山 正英)

用していくことが重要となります。

そこで、学園創立70周年を迎える節目の年に、VIガイドラインを策定し、組織として統一されたルールのもと校章、学園シンボルマーク、ロゴタイプ等を使用していくこととなりました。

本学園関係者各位ならびにご協力をいただいている皆様には、ガイドラインをご理解の上、本学園の更なるブランド力向上にご協力いただきますようよろしくお願い致します。

## 開催行事案内

### 青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

#### ●FWミニ公開講座

会場：サテライトキャンパスFRIENDLY WINDOW

日程	テーマ	講師
9月3日(土)	10:00~11:30 家庭での救急法	看護学部准教授 木村 千代子

### 青森中央短期大学

#### ●公開講座

会場：青森中央短期大学

日程	内容	参加費
8月21日(日)	10:00~12:00 昔なつかし手作りおもちゃ	材料費実費
9月30日(金) 10月14日(金) 10月28日(金) 11月11日(金)	18:30~20:00 日常を楽しくするデッサン教室	材料費実費
10月15日(土)	10:00~12:30 家庭での救急法	600円

### 青森中央経理専門学校

#### ●公開講座

日時	テーマ	対象	場所
8月25日(木) 8月26日(金)	10:00~15:30 パソコン講座 Word・Excelの活用	一般 一般	青森県総合社会教育センター

### 青森中央文化専門学校

#### ●公開講座

会場：青森駅ビル ラビナ もくもく〜木育広場〜

日程	内容	参加費
8月 7日(日)	10:00~16:00 夏休み自由研究 ～デコレーションボックス、フォトフレーム、リース、アクセサリー～	材料費実費

#### ●公開講座 (FRIENDLY WINDOW)

会場：FRIENDLY WINDOW 対象：一般・学生

日程	内容	参加費
7月30日(土)	13:00~17:00 簡単ソーイング ～ポーチ・トートバック～	材料費実費
10月17日(月) 10月24日(月)	13:00~15:00 アクセサリー講座 ～オリジナルブローチ～	

## 青森田中学園70周年記念行事

青森田中学園創立70周年を記念し、本学園設置校それぞれの学びの特徴を活かした記念行事を開催いたします。

### DRESSEDUNDRESSED展／トークイベント

DHLデザインアワードを受賞するなど、国内外から注目を集めるファッションブランド「DRESSEDUNDRESSED」。このブランドを手掛ける青森市出身のファッションデザイナー北澤 武志氏によるトークイベントを開催いたします。

※トークイベントは青森中央文化専門学校プレスクール対象講座となっています。  
(参加特典：入学検定料 [¥10,000] 免除)

#### ◆トークイベント

日時：8月11日(木) 13:00~14:00

会場：青森県立美術館

#### ◆DRESSEDUNDRESSED展

日時：8月11日(木)～8月16日(火)

会場：青森県立美術館





## 「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、10月発行予定の97号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■97号応募締め切り：9月30日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は  
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第96号

発行日：2016. 8. 1

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

## 「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

松島 正起 浜中 幸美

木村 貴子 齋藤 明日香

坪谷 輝子 八木橋ひろみ

岩葉 悦子 高橋 晴美

中田 尋美